

## 中学2年2組 英語科学習指導案

指導者 須田 香織

学級全体で、職場体験学習を通して学んだことや考えたことを伝え合うような学び合いの場を設定したことは、友だちから学んだ表現や考えを自分のものと結びつけながら、さらに自分の考えや表現を発展させることに有効であったか。

### 1 単元名 接続詞を使って自分の考えを相手に納得してもらおう ～Unit5 A Park or a Parking Area?～

#### 2 授業の構想

(1) 生徒たちは、思春期を迎え、周りの友だちの言動を大なり小なり意識しながら日々の学校生活を送っている。1年生の頃は、自分が思ったことをそのまま言ったり、行動したりする姿も多く見られた。時には、周りが何と言おうと自分の意見を押し通したり、周りが見えず自分勝手な言動をとったりする生徒もいた。2年生になり、後輩ができたこともあって、自分の言動を客観的に判断して行動したり、意見を言ったりする生徒も増えてきた。その一方で、周りの友だちがどう考えているのかを強く意識し始め、自分の考えや意見を言うのをためらったり、人と同じ意見や行動をとるのに安心感をいなく雰囲気もある。

本学級の生徒は、学習に対して前向きで、基礎的な知識を習得するために単語や基本文を練習したり、友だちとの音読練習に積極的に取り組む姿が多く見られ、授業中の挙手にも意欲的である。また、1年生の頃から続けているスピーチ活動を通して、自分が伝えたいことを表現したり、相手が伝えようとしていることを理解したりすることに喜びを感じる生徒も多い。2学期のはじめに行ったアンケートでは、次のような結果が出た。①「Yes/Noで答える質問は得意ですか。」という問いに対して、90%が肯定的な回答であった。②「自分のことや自分の身の回りのことなどを書いたり話したりする表現活動は得意ですか。」という問いに対しては、46%の生徒が肯定的な回答であった。以上の結果から、ある程度答えが決まっている一問一答のような問題には抵抗はないが、自分の考えやある事柄についての感想を書いたり話したりすることには、苦手意識をもっている生徒が半数もいることが分かった。しかしながら、実際に「自分が先生になったつもりで、トマトの嫌いな生徒にアドバイスをする」という表現活動を行った時には、89%の生徒が教科書を参考にしながら自分のオリジナルの文を作ることができた。このことから、多くの生徒がまとまりのある英文を書くことには慣れてきているように思われる。しかし、それらを用いて目の前の相手と質疑応答をしたり、相手の発話を聞いてからとっさに何を言わなければいけないのか考えて発話することには慣れていないように思われる。このような生徒の実態を考えた上で、「豊かなコミュニケーションを図ろうとする」子どもの姿を実現すべく、体験から学んだことや自分の考えを伝え合う活動を設定し、相手に自分の意見を伝える経験をする必要があると考え、本単元の授業を構想した。

(2) 本部会では、「豊かな学びの姿」をただ単に基礎的・基本的な知識や技能が定着している状態を指すのではなく、他者とのかかわり合いを通して、それらを高め合い、探求心をもってさらなる自己の伸長を図る姿をとらえている。そのため、ペアやグループをうまく活用し、相手から学んだり、自分の良さを再認識したりしながら、もっと知りたい、もっと学びたいと思うような生徒の育成を目指している。

小学校の外国語活動では、英語でコミュニケーションを図ることの楽しさ、つまり「もっと使ってみよう」、「英語でどう言えばよいのだろう」といったコミュニケーション能力の素地を育ててきている。これらの気持ちを大事にしつつ、中学校では、年間を通して行うスピーチ活動を中心とした4技能を統合的に活用できる言語活動を取り入れながら、コミュニケーション能力の育成をめざしている。

本単元のねらいは、あるテーマについて、接続詞if, that, when, becauseを含んだ文を用いて、体験から学んだことや自分の考えをまとまりのある文章で相手に伝えることができるようにすることである。

2年生の2学期は、中学校生活のちょうど半ばをむかえ、生徒会活動や部活動などで中心となって取り組む機会が増え、自分の言動に責任をもち、自分なりに取捨選択しながら物事を進めていく時期である。9月には職場体験学習を行い、今後に生かせる貴重な経験をし、自分の進路についても考え始めるきっかけにもなる。そこで、この單元では、生徒の心に残っているであろう職場体験学習をテーマにし、新出の言語材料を用いて、自らの考えと体験を相手に伝える活動を取り入れたい。今までは、現在や過去の事実または、形容詞を用いてそれらについての感想を述べる活動は行ってきた。今回は体験から学んだことや自分の考えを理由を交えながら相手に伝えていく。その際に、他の誰でもない自分が体験したこと、または体験から感じ取ったことを自分の中でじっくり考え、何を話せばいいのか、どのような文構造が適切かまたは、相手に自分の考えを分かってもらうための表現方法などについて思考・判断を繰り返し相手に伝える。ここでは、一方的な発信ではなく、相手の意見を受信し、さらにその意見について自分の中で考えをめぐらせる。友だちとかかわり、受信発信を繰り返すことで、さらに自分の考えを深めるきっかけとなったり、自分ひとりではたどり着けない考えや表現をさらに発展させることにつなげたいと考えている。

(3) このような本単元のもつ性質と本学級の実態を踏まえた上で、単元を以下のように展開する。本單元では、あるテーマについて個人で考えた意見を自分の体験と交えながら相手に伝える学び合いの場を毎回設定する。学習が進むにつれて、与えるテーマを話しやすい内容から、じっくり考えなければ話せない内容にしていき、自分の内面的なことを語らせることで、自分の考えに深まりをもたせるはたらきかけをしていきたい。第1次では、「読書の秋？スポーツの秋？」という選択を迫られたらどっちを選ぶのかを、接続詞if, thatを含んだ文を用いて、自分の考えとその理由を自分の経験を交えながら友だちと意見交換をする学び合いの場面を設定する。ここで大切にしたいのは、自分の意見をもつことである。2択とはいえ、どちらかを自分の意思で選び、理由を考える経験をしながら、意見をもち相手に伝える大切さを学んでほしいと願っている。相手に伝えるという課題を与えることで、相手により伝わるための単語選択、文構造または、話すスピード、音量など考慮するようになることを考える。また、相手の意見を聞くことで、多様な価値観にふれ、思考を揺さぶられ、相手の使っている単語や表現または、話し方を参考にし、それらを発展させていくことを期待する。そして第2次では、接続詞whenを含む文を用いながら、どんな時に悲しいと思うか、嬉しいと感じるかといった自分の気持ちを伝え合う活動を取り入れたい。

本単元の最終には、職場体験学習で学んだことや自分の考えを意見交換し、日常生活で自分たちがしていこうと思うことを考え、発表する活動を取り入れる。自分で考えたことを、ペアまたはグループ、学級全体と学習形態を変えながら、自分の考えを発信し、友達の考えを受信するような学び合いの場面を設定することは、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り、さらに自分の考えを深め、表現力を高めることにもつながるのではないかと考えている。自分の考えを整理させ、何を伝えたいのかをはっきりさせるために、総合的な学習の時間でまとめたことを参考にしながらマッピングを取り入れさせ、自分の意見をしっかりと述べる準備をさせたい。まとまりのある文章を作る際に、英語で表現することが苦手な生徒には、モデル文や友だちの文を参考にさせたり、英語の語順を示したする。そうした上で、自分の意見をしっかりと述べるために、音量や話すスピードを考えながら、グループの中で相手に伝わるための話し方の練習を行い、意見交換をする活動を取り入れる。生徒は、友だちとのかかわり合いを通して、友達の表現の中に自分でも使ってみたい表現を見つけたり、よりよい文構成に気付いたり、友だちのアドバイスを受けたりしながら、表現の幅をさらに広げていくことができると考える。

### 3 展開計画（活動全8時間 本時8／8）

| 次 | 主な学習                            | 時           | 具体的な学習内容（◇は、学級全体の学び合いの場面）   |
|---|---------------------------------|-------------|---|
| 1 | 自分が何を選んだのかを理由を含めて説明し、相手の意見を聞こう  | 1<br>2<br>3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続詞if, thatを含む文の意味や構造および、その運用について理解する。</li> <li>・接続詞ifやthatを含んだ文を用いて、2択の中から自分の好きな方を選び、自分の考えを実体験を交えて友達と話す。</li> </ul> ◇参考になる表現を自分のものとして活用できるように、学級全体で出た意見を共有することで、自分の使ったことのない表現を知り、表現の幅を広げる。 |
| 2 | どんな時に嬉しいのか、悲しいのか自分の気持ちを相手に伝えよう  | 4<br>5      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続詞whenを含んだ文の意味や構造および、その運用について理解する。</li> <li>・接続詞whenを含んだ文を用いて、どんな時にどう感じるのかなどの自分の気持ちについて説明する。</li> </ul> ◇色々な価値観に触れることで、自分の考えと結びつけて考え、新しい考えや表現方法を学ぶ。  |
| 3 | 職場体験学習を通して学んだことを理由を含めて友だちと話し合おう | 6<br>7<br>⑧ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・接続詞becauseを含んだ文の意味や構造および、その運用について理解する。</li> <li>・接続詞を用いた文章を聞いたり読んだりして、内容を理解する。</li> <li>・職場体験学習の経験を友だちに伝える。</li> </ul> ◇友だちの意見を聞くことで、自分の意見や表現を発展させる。  |

### 4 評価計画

| 次 | 時           | コミュニケーションへの関心・意欲・態度               | 外国語表現の能力                                       | 外国語理解の能力                                  | 言語や文化についての知識・理解                                |
|---|-------------|-----------------------------------|--|---|--|
| 1 | 1<br>2<br>3 | 学んだ表現を積極的に使って質問したり、答えたりしている。      | キーワードを強調したり、抑揚をつけたりして自分の考えを実体験を交えて正確に相手に話している。 | 自分の考えと比較しながら、相手の考えを正しく聞き取っている。            | 接続詞if, thatを含んだ文の意味や構造、およびその運用についての知識を身に付けている。 |
| 2 | 4<br>5      | うなずいたり、反応したりしながら相手の話に関心をもって聞いている。 | どんな時に悲しいかうれしいかなど自分の気持ちを話している。                  |   | 接続詞whenを含んだ文の意味や構造、およびその運用についての知識を身に付けている。     |
| 3 | 6<br>7<br>⑧ | 自分の意見をグループや学級全体の場で話そうとしている。       | 職場体験学習で得たことや自分の考えを接続詞を含んだまとまりのある文章で書いている。      | 職場体験学習を通して学んだことや友だちの意見を聞き取ったり、読み取ったりしている。 | 接続詞becauseを含んだ文の意味や構造、およびその運用についての知識を身に付けている。  |

### 5 本時の学習

#### (1)ねらい

接続詞if, that, when, becauseを含んだ文を用いて、職場体験学習から学んだことや自分の考えをまとまりのある文章で相手に伝えることができる。

(2)展 開

| 学習場面と子どもの取り組み  | 教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきか)   |
|--|---|
| <p>1. あいさつをする。</p> <p>2. 本時の流れとめあてを確認し、前時の復習をする。<br/>接続詞を用いた文を使って復習をする。</p> <p>3. 職場体験学習のモデルスピーチをする。<br/>質疑応答を行う。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習に見通しがもてるように、流れとめあてを提示する。</li> <li>・今後の活動で活用できるように、きちんと言えているかどうかを確認していく。</li> <li>・接続詞を含んだ文を活用したり、相手の気持ちを尋ねたりするような質問をとりあげ、本時の活動に見通しがもてるようにする。</li> </ul>  |
| <p>接続詞 (if, that, because, when) や既習の表現を含んだ文を用いて、体験から学んだことや自分の考えを相手に納得してもらおう。</p>  |   |
| <p>4. これから日常生活の中で自分たちがしていこうと思うことをクラスに呼びかけよう。<br/>自分たちがしていこうと思うことを接続詞を含んだ文を用いて考える。<br/>個人で考えた後、班で意見を出し合い、ホワイトボードにまとめる。<br/>クラス全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Smile when you talk with your friends.</li> <li>・ Say hello in a big voice because people feel good.</li> <li>・ Look at people' s eyes when you talk.</li> </ul> <p>5. 職場体験学習についてペアで意見交換をする。<br/>職場体験学習から学んだ自分の意見を伝え合う。<br/>意見交換の内容をメモする。</p> <p>6 学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 接続詞を使って自分の意見を言うことができよかった。</li> <li>・ 次は○○を使って自分の意見を言ってみようと思う。</li> <li>・ みんなで共有した○○の表現が使えてよかった。</li> <li>・ 自分の言ったことに対して、相手がI see. I think so, too. など納得する反応があつてよかった。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えが思い浮かばない生徒には、自分の書いたものからヒントを探させるか、今までに友だちとの意見交換で得た情報から考えるよう声をかける。</li> <li>◎色々な意見や表現を全体で共有することで、自分の考えや表現を発展させるきっかけとさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価の観点 (外国語表現の能力)</p> <p>接続詞 if, that, when, because を含んだ文を用いて、職場体験学習から学んだことや自分の考えをまとまりのある文章で相手に伝えている。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法 ワークシート・観察】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎友だちの考えやその理由、または使ってみたい表現をメモすることで、自分の考えや表現に深まりをもたせる。</li> <li>・ 本時で学んだことを整理し、自分の発言はどうだったのか、また友達から何を学んだのかをふりかからせ、次の機会に使ってみたいと思う意欲を高める。</li> </ul> |